

保証書

株式会社 カスタム
印ス会

保証規定
本器は当社基準に基づく検査により合格したもので、下記の保証規定により保証いたします。

- 保証期間中に正常な使用状態で、万一故障等が生じました場合は無償で修理いたします。
- 本保証書は、日本国内でのみ有効です。
- 下記事項に該当する場合は、無償修理の対象から除外いたします。
 - a 不適な取扱い、使用による故障
 - b 設計仕様条件等を越えた取扱い、または保管による故障
 - c 当社もしくは当社が委嘱した者以外の改造または修理に起因する故障
 - d その他当社の責任とみなされない故障

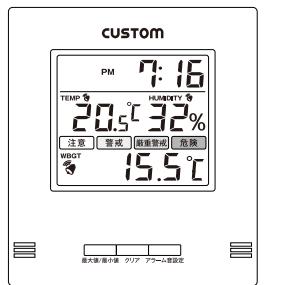
型番	HI-300	ロット番号	
保証期間 年 月 日より1カ年			
お客様	お名前 様	ご住所	
販売店	住所・店名	販売店様へ お手数でも必ずご記入のお客様へお渡しください。	

株式会社 カスタム
〒101-0021 東京都千代田区外神田3-6-12
TEL (03) 3255-1117 FAX (03) 3255-1137
<http://www.kk-custom.co.jp/>

120403

CUSTOM

デジタル熱中症計 HI-300



取扱説明書

この度は当社のデジタル熱中症計をお求めいただきまして誠に有り難うございます。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。
なお、お読みいただきました後も、この取扱説明書を大切に保存されることをおすすめします。

3.特長

- 現在時刻、温度、湿度と熱中症(WBGT)指数を同時表示することができます。
- 本器は、熱中症(WBGT)指数を数値と併せ「危険」、「厳重警戒」、「警戒」、「注意」の4つのアイコンで表示するので、誰でもわかりやすく熱中症の危険度を知ることができます。熱中症(WBGT)指数については、「6.熱中症(WBGT)指数とは」をご覧ください。
- また、本器は気温と湿度より簡単に熱中症(WBGT)指数を算出しております。
- 温度と湿度は製品本体の中に入っているセンサーで測定できます。本器は温度、湿度と熱中症(WBGT)指数の3つの測定と共に最高(MAX)と最低(MIN)を自動的にメモリすることができ、各々を呼出し表示することが可能です。

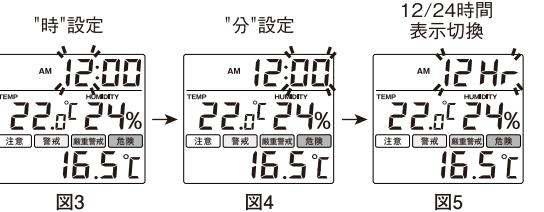
4.使用方法

- 本器を測定を行う環境に設置して、表示が安定したところで数値を読み取ります。
- 最大値/最小値メモリ
本器は温度、湿度と熱中症(WBGT)指数のそれぞれの最高値、最低値を自動的にメモリします。
- ①測定モード中に「最大値/最小値」ボタンを押す毎に表示部は下記のように切り替わります。

測定モード→最大値(MAX)表示→最小値(MIN)表示

②上記のデータをクリアするには、それぞれの画面を呼び出してから「クリア」ボタンを押してください。「——」が表示されそれぞれのメモリはクリアされます。

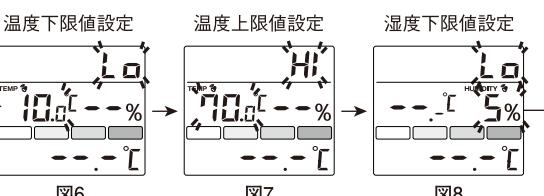
③現在時刻の設定方法
本体裏の「時刻セツ」ボタンを3秒以上押してください。図3が表示され現在時刻の「時」が点滅します。また、このボタンを押す毎に表示部は下記のように切り替わり、それぞれの箇所が点滅します。



それぞれの画面で設定を変更するには「+」または「-」を押してください。また、これらのボタンは長押しすることで数値を早送りできます。図5まで設定が終わったら最後に「時刻セツ」ボタンを押して通常測定画面に戻ってください。

(4) 上限下限アラームの設定方法
本体裏の「アラームセツ」ボタンを3秒以上押してください。図6が表示され「Lo」と温度表示部が点滅します。また、このボタンを押す毎に表示部は下記のように切り替わります。

画面のそれぞれの表示は下記の意味になります。
"Lo" : 下限
"Hi" : 上限
"TEMP" : 温度
"HUMIDITY" : 湿度
"WBGT" : 热中症指数



安全にご使用いただくために

本器を安全にご使用いただくために、以下の事項をお守りください。
本文内の△危険は、使用者が感電事故等を起こす可能性を避けるための記号です。また、△警告は、本器を長期間にわたって損傷を防ぎ良好な状態でご使用いただくための記号です。

△危険

損傷や火災事故防止のため、電子レンジなどマイクロ波加熱炉での温度測定は絶対に行わないでください。

△危険

使用済みの電池は直ちに破棄してください。また、電池を加熱すると破裂する恐れがありますので、絶対に火の中へ入れないでください。

備考

冬期間の室外での使用は、本体の温度低下により応答速度が遅くなることがあります。暖房器具などの周辺でのご使用は、本体のプラスチック部の変形・故障の原因になったり、電池の消耗が常温での使用に比べて早くなります。

△警告

直射日光のある場所でのご使用、夏期の車内での放置はやめてください。

極端な温度変化のある環境でのご使用は、結露の原因になりますので、注意してください。

△警告

本器は熱中症の発症を完全に防止できる製品ではありません。
熱中症の発症は、周囲環境の温度・湿度・輻射熱等の影響や、個人の年齢・性別・健康状態、その時の活動状況(運動や労働状況等)など、様々な要因に影響されます。ご使用いただく際には、これらの特性を良く理解いただいた上で、あくまでも目安としてご使用ください。

本器の特性を有効に発揮させるために、直射日光が当たらない室内・屋外に設置してご使用ください。

防水について

本器は、防水構造ではありません。屋外での測定時の雨、雪などの天候のとき、あるいは、プールや厨房など、水がかかりやすい場所での測定時は本器の防水には十分に注意してください。

メンテナンス

△警告

不具合が生じたときは、弊社、または弊社代理店に修理を依頼してください。本器を分解することは、絶対にやめてください。精度の保証がでなくなります。

電池の交換のとき、濡れた手で本体内部をさわらないでください。付着した汚れは、乾いた柔らかい布、または中性洗剤を溶かした洗剤液に浸して固く絞った布で拭いてください。絞り方が不完全な布は使わないでください。

アルコールやシンナ、ベンジンなどの揮発性溶液は、絶対に使用しないでください。

2.各部の名称

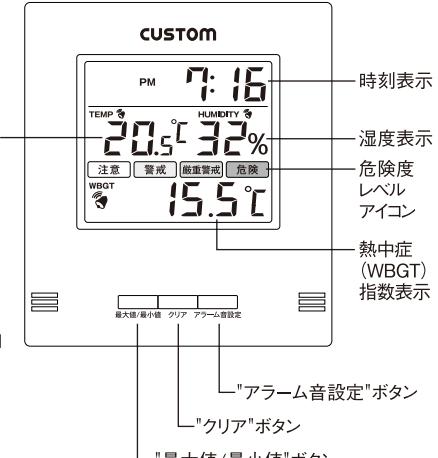


図1

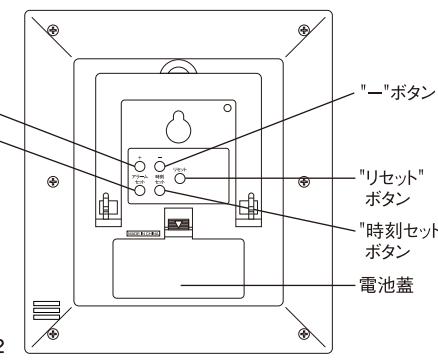
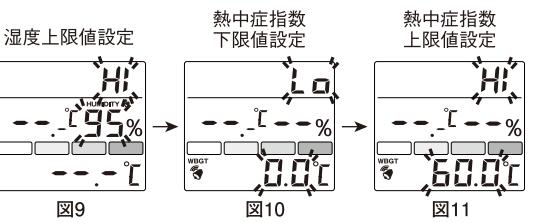
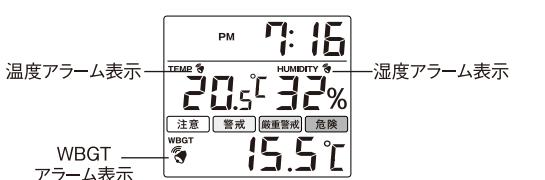


図2



それぞれの画面で設定を変更するには「+」または「-」を押してください。また、これらのボタンは長押しすることで数値を早送りできます。

(5) アラーム機能の設定方法
アラーム機能を働かせるためには、各アラームを設定してから「アラーム音設定」ボタンを押してください。表示部のアラームマークが点灯します。温度、湿度、WBGT指數がそれぞれ設定した値になるとアラームが鳴ります。また、表示部の各アラームマークが点滅します。
アラームは、最初1秒おきに「ビッ」と10秒間鳴り、その後、10秒おきに1回「ビッ」となります。アラームを設定した値から実際の値が外れると、アラームは鳴り止みます。強制的にアラームを止めたい時は、「アラーム音設定」ボタンを押してください。表示部のアラームマークが消灯します。



(6) 「リセット」ボタン
このスイッチを押すと全てのデータが消去され、初期化されます。

5.電池の交換

表示がうすくなったり、表示が出なくなった場合は次の手順で電池を交換してください。

- 本体裏の電池ボルトのノブを下に押し手前に引いて外してください。
- 電池ボックス内に示されている極性表示通りに、単4電池(1.5V)2本を装填してください。
- 電池蓋を元に戻してください。

6.熱中症(WBGT)指數とは

熱中症はスポーツ活動ばかりではなく日常生活や職場でも発生します。WBGT(Wet-bulb globe temperature、湿球黒球温度)を「温度基準」とした熱中症予防指針では、その温度レベルによって「危険」(31°C以上)、「厳重警戒」(28°C~31°C)、「警戒」(25°C~28°C)、「注意」(25°C未満)の4段階に分けられています。
このWBGTを求めるには、黒球温度計を用いるのが一般的ですが、本器では内蔵の温湿度計からこのWBGT基準を簡易的に算出、表示しています。

6-1.日常生活における熱中症予防指針

温度基準(WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険(31°C以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒(28°C~31°C)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒(25°C~28°C)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れ。一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。
注意(25°C未満)	強い生活活動でおこる危険性	

(ここでWBGTはその日の最高気温時の気温と湿度から推定されるもので)(28~31°Cは28°C以上31°C未満の意味)

6-2.注意すべき生活活動強度の目安

各温度基準域における注意すべき生活活動強度の目安を表1に示す。
軽い活動強度は3.0METs未満、中等度の活動強度は3.0~6.5 METs、強い活動強度は6.5METs以上に相当する。
以上のように生活活動強度を强度別に区分したが、熱中症の発生は作業強度だけなく、作業時間によっても大きく影響される。したがって、運動や労作をする場合、軽い活動強度であっても、定期的に休息を取り入れ、水分を補給する必要がある。

表1 注意すべき生活活動強度の目安

軽い	中等度	強い
3.0 METs 未満	3.0~6.5 METs	6.5 METs 以上
休息・談話	自転車 16km/時 未満	ジョギング
食事・身の回り	歩速 95~100m/分	サッカー
楽器演奏	掃除(はく・ふく)	テニス
裁縫(縫い・ミシンかけ)	布団あげおろし	リズム体操
自動車運転	体操(強め)	エアロビクス
机上事務	階段昇降	卓球
乗物(電車・バス立位)	床磨き	バドミントン
洗濯	垣根の刈り込み	登山
手洗い、洗顔、歯磨き	庭の草むしり	剣道
炊事(料理・かたづけ)	芝刈り	ウォーキング 107m/分
買い物	美容体操	バスケットボール
掃除(電気掃除機)	ジャズダンス	繩跳び
普通歩行 67m/分	ゴルフ*	ランニング 134m/分
入浴	マラソン	
ストレッチング		
ゲートボール*		

*野球やゴルフ、ゲートボールは活動強度は低いが運動時間が長いので要注意
●METs(Metabolic equivalent):代謝当量と呼ばれ、活動に要したエネルギー量の安静時代謝量に対する比率を表わす。